授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復科）令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英　　語	英語は言語であり、道具として使わなければならない。最先端の国際的研究発表・論文などは英語が主流である。世界共通語である医学英語を基礎から学習し、使えるようにしたい。	1前	30	2	○			○			○	
○			社 会 学	現代日本が抱える諸問題を家族・ジェンダー・貧困といった視点から考えて行きたい。	1前	30	2	○			○			○	
○			体　　育	1.体力の定義2.コンディショニング論3.トレーニング論4.運動療法論5.筋力6.持久力7.巧緻性・敏捷性・協調性8.アライメント9.柔軟性とストレッチング10.神経筋機能とＰＮＦ	3前	30	2	△		○	○			○	
○			心 理 学	心理学の基礎を学び対人援助職としての自己理解・他者離解を深める。	1通	30	2	○			○			○	
○			栄 養 学	幅広い疾患に対する治療効果を上げる為に柔道整復師として健康や疾患について理解しておく必要がある。	1後	30	2	○			○			○	
○			生 物 学	1.序論2.細胞と組織3.体液4.循環器系･呼吸器系･消化器系	1通	60	4	○			○			○	
○			解 剖 学	1.人体解剖学概説2.運動系3.脈管系4.内臓系5.内分泌系6.神経系7.感覚器8.体表解剖	123通	180	12	○			○		○	○	
○			生 理 学	1.生理学の基礎2.血液3.循環4.呼吸5.消化と吸収6.栄養と代謝7.体温とその調節8.尿の生成と排泄9.内分泌系の機能10.生殖11.骨12.体液13.神経の基本的機能14.神経系の機能15.筋肉の機能16.感覚	123通	180	12	○			○			○	
○			運 動 学	1.運動学の目的2.運動の表し方3.身体運動と力学4.運動器の構造と機能5.神経の構造と機能6.運動感覚7.反射と随意運動8.四肢と体幹の運動9.姿勢10.歩行11.運動発達12.運動学習	2通3通	60	4	○			○			○	
合計				9科目				630単位時間(42単位)							

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復科）令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			病理学概論	1.病理学とは2.疾病の一般3.細胞傷害4.循環傷害5.進行性病変と細胞・組織の適応6.炎症7.免疫異常・ｱﾚﾙｷﾞｰ8.腫瘍9.先天性異常10.病因	2通3通	75	5	○			○			○	
○			一般臨床医学	1.診察概論2.診察各論3.3.検査法4.主要な疾患	2通3通	75	5	○			○			○	
○			外科学概論	1.損傷2.創傷3.熱傷4.炎症と感染症5.腫瘍6.ショック7.輸血･輸液8.消毒と滅菌9.手術10.麻酔11.移植と免疫12.出血と止血13.心肺蘇生法	2通3通	75	5	○			○			○	
○			整形外科学	1.運動器の基礎知識2.整形外科診察法3.整形外科検査法4.整形外科的治療法5.骨･節損傷総論6.スポーツ整形外科概論7.リハビリテーション総論8.疾患別各論9.身体部位別各論	2通3通	90	6	○			○			○	
○			衛生学	1.歴史2.健康の概念3.疾病予防と健康管理4.感染症の予防5.消毒6.環境衛生7.生活環境・食品衛生活動8.母子保健9.学校保健10.産業保健11.成人･高齢者保健12.精神保健13.地域保健と国際保健14.衛生行政と保健医療の制度15.医療の倫理と安全の確保16.疫学	3通	45	3	○			○			○	
○			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	1.概念と歴史2.リハビリテーション医学3.基礎医学4.評価と診断5.治療6.関連職種7.実際	2通3通	60	4	○			○			○	
○			公衆衛生学	1.歴史2.健康の概念3.疾病予防と健康管理4.感染症の予防5.消毒6.環境衛生7.生活環境・食品衛生活動8.母子保健9.学校保健10.産業保健11.成人･高齢者保健12.精神保健13.地域保健と国際保健14.衛生行政と保健医療の制度15.医療の倫理と安全の確保16.疫学	2通	30	2	○			○			○	
○			関係法規	1.総則2.免許3.試験4.業務5.施術所6.雑則7.罰則8.指定登録機関及び指定試験機関9.附則	1前2通	75	4	○			○			○	
○			柔道	1.柔道の基本動作を習得し実際に稽古に取り組み面白さやその醍醐味を体感する2.基本を基に対人機能の向上を図ると共に個々のレベルにあった目標に向かって努力する3.総括として実技の充実	123通	160	5	△		○	○		○	○	
○			社会保障制度	社会保障に関する関係法規等	2前	15	1	△		○	○		○	○	
合計				10科目											
								685単位時間(40単位)							

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復科）令和元年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎柔道整復学	1. 運動器学2. 骨・関節損傷学基礎3. 軟部組織損傷学基礎4. 評価と施術学基礎	1通2通	240	16	○		△	○		○	○	
○			臨床柔道整復学	1. 上肢・下肢の損傷学2. 頭部の損傷学3. 体幹の損傷学4. 臨床総合学	123通	510	34	△		○	○		○	○	
○			柔道整復実技	1. 基本評価法2. 基本的治療法3. 臨床的治療法4. 総合柔道整復演習	123通	510	17	△		○	○		○	○	
○			臨床実習	臨床実習	123通	180	4			○	○	○	○	○	○
合計				3科目	1440単位時間(71単位)										
総合計				22科目	2755単位時間(153 単位)										

卒業要件及び履修方法

進級・卒業の認定について
１．進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得ならびに出欠状況等により教務会の議を経て校長が認める が、次の各項に該当する者は原級留置とする。
１）進級認定
教務会の議を経て校長が認可 する 。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。
（１）１年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者
（２）各授業の年間延欠課日数が全 授業 日数が30%を超えた者
（３）当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者
（４） 期日までに所定の学費を納入しない者
（５ ）その他校長が裁定した者

２）卒業認定
教務会の議を経て校長が認可 する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。
（１）１年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者
（２）各授業の年間延欠課日数が全 授業 日数の30%を超えた者
（３）卒業までにすべての単位を修得していない者
（４）公益財団法人 柔道整復研修試験財団 が実施している認定実技審査に合格していない者
（５）期日までに所定の学費を納入しない者）期日までに所定の学費を納入しない者
（６）その他校長が裁定した者）その他校長が裁定した者

授業期間等

１学年の学期区分	2期
１学期の授業期間	22週

（留意事項）
１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。